



街のホットな話題をお届けします



1/8
日曜日

元気に「火の用心」 幼年消防クラブが行進

“見て、ふれて、参加して”をテーマにパルティセと周辺で消防出初式を開催しました。式典では、平成23年中、火災が発生しなかった「古瀬戸・西陵・八幡台・原山台」の4連区が表彰されました。

第1部では、瀬戸川右岸の道路を消防団や消防車などの行進が行われ、今年はじめて、園児でつくる

「幼年消防クラブ」のかわいらしい行進もあり、参加した瀬戸幼稚園の園児らは「火の用心 よい子は火では遊びません。」と来場者に大きな声で力強く呼びかけていました。

第2部では、愛知工業大学の学生らが、「震災」をテーマにした紙芝居「いなむらの火」を朗読する催しがパルティセとで行われました。参加した学生は、「小さいお子さんに伝えるには紙芝居が一番だと思い初めて企画した。これからは保育園や小学校にも出かけ、津波のおそろしさを子どもたちに伝えていきたい。」と話してくれました。

1/20
金曜日

海外作家との交流

陶芸作家サリー・ウォークさん(オーストラリア)とガラス作家マーレ・サーレさん(エストニア)が、瀬戸窯業高校で専攻科の生徒さんを前に、自身の作品などを解説しました。

この事業は、海外で活躍されている作家を招聘し、市内で制作していただき、さまざまな交流を行う「瀬戸国際セラミック&ガラスアート交流プログラム」の一つです。

サリーさんは、自分の国が海に囲まれているため、海の生物をテーマに作っていることを、マーレさんは、作る人が少なくなったガラス彫刻の技法を後世に残していけるようにしたいと説明されました。生徒からは「とても興味深い話だった。」と感想を話してくれました。※関連記事8ページ



1/25
水曜日

瀬戸と尾張旭で 119番通報を共同運用

瀬戸市長と尾張旭市長は「消防通信指令業務共同運用に関する協定書」に調印しました。

協定では、両市の消防体制を強化するために、12月1日から、119番通報を受ける通信指令施設の充実を図ると共に、両市内からの119番通報を、瀬戸の通信指令施設で一括して受信し、共同で運用するものです。これまで、市境からの119番通報は隣市の消防指令施設が受ける場合がありましたが、

今後は両市間の転送が不要となり、救急現場までの時間が短縮できます。